

今誰もが欲しがらるもの、といえは新型コロナウイルスのワクチンだろう。とりわけ診療で多くの人に接する医療従事者にしてみれば、すぐにでも接種してほしいところだ。現在世界中で100を超えるワクチン開発研究が進行している。先行する米国、中国、英国のワクチンはすでに安全性や有効性を確認する段階に入った。

5月末、英国オックスフォード大学は、ワクチンの第2相および第3相の臨床試験を開始すると発表した。このワクチンの設計は、1月10日に着手されたというから、その初動の早さには驚く。すでに1,000人以上にワクチンを投与し、安全性の確認を行った。今後行われるランダム化試験は、有効性を示すのが目標だ。試験参加者は、新型コロナウイルスワクチンか髄膜炎菌ワクチンのどちらかの群にランダムに割り付けられる。髄膜炎菌ワクチンはsham（ニセモノ）である。接種後の反応から、本物のワクチンを打ったかどうか推測できないよう、生理食塩水ではなく、副反応が起きるものがわざわざ使われている。試験参加者が、自分が打った注射が何であるかがわかれば、その後の行動に影響が出る可能性があるためだという（ホンモノのワクチンを打ったらもうマスクなんてしないかも）。

ワクチンの効果を確実に検出するためには、ランダム化、盲検化は至極真つ当な手続きである。しかし、この緊急時にあって、「真つ当さ」を貫くのは、実は驚嘆すべきことだ。今回のパンデミックでは、緊急事態ゆえに数多くの特別措置がとられた。なにせ100年に一度の緊急時である。「安全で効きそうだったら、すぐに全員にワクチンを打て」という声があがってもおかしくない。しかし、オックスフォードの研究者たちは、愚直なまでに科学の王道に忠実だ。それは人間のわざのあやうさを熟知しているからなのかもしれない。

今回のテーマは「頸部神経根症の治療を見直す」である。自分たちの診療を振り返るとき、私たちが英国の科学者たちの厳しい姿勢に学ぶべきことは多い。

（筑田博隆）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素磨 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

山崎正志（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 谷 論 筑田博隆
永島英樹 中村雅也 根尾昌志
原 政人 飛驒一利 松山幸弘

Vol. 33 No. 7
（2020年7月25日発行）

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,500円＋税）
（配送料別）

年ぎめ予約購読料33,300円＋税
送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷綱ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社
TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2020,
Printed in Japan

3COPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前
に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、
FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の
許諾を得てください。